

「糖尿病危険度予測シート」の開発について

茨城県立健康プラザでは、このほど糖尿病予防を推進する目的で、健康診断の結果から、受診者が将来に糖尿病を発症する危険がどの程度かが一目でわかるシートを用いた「糖尿病危険度予測シート」を開発しました。

（現状）

茨城県の糖尿病の死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対）は、全国で高い方から6番目（平成18年）となっています。今後の高齢化社会に向けて、脳卒中や心筋梗塞などの循環器系疾患に罹りやすくなるばかりか、神経障害や網膜症、腎症、足の壊疽などの合併症を引き起こし、生活の質の著しい低下をきたします。

それらに伴い、医療費の高騰につながることから、健康づくりの優先課題としての糖尿病の予防対策はますます重要となります。

（ねらい）

市町村ではこれまでも、住民健診で異常値の見つかった人などを対象に、減塩や血圧管理、禁煙指導などの保健指導を行ってきましたが、「将来の病気にどのくらい影響を及ぼすか」についてはわかりにくいため、実際に生活習慣の改善に取り組む人は少ないという問題が指摘されてきました。今回のシートは、健診結果から将来の健康にどの程度影響が現れるのかを、シート上の数値として確認することで、自分が将来、糖尿病にどのくらい罹りやすいかがわかり、受診者の自覚を促していこうというねらいがあります。

（開発方法）

このシートの基礎にあるのは、健診受診者生命予後追跡調査事業であり、全国でも初めて県独自で行った大規模な疫学調査のデータです。県内38市町村に協力を依頼し、平成5年度に住民健診を受けた9万6千人の生死（生命予後）を10年間にわたり追跡調査したものです。また、これまでも、脳卒中危険度予測ツールを平成17年1月に、健康増進計画策定支援ツールを平成17年12月に開発してきました。

（今後の予定）

このシートは、県内の全市町村に配布し、平成20年から始まる、特定健診・特定保健指導を効果的に推進するための教材（糖尿病発症の危険度を予測するとともに、生活習慣改善に向けた行動変容を促す内容が含まれているため）としての利用が期待できます。